

2025 年度 玉川大学一般選抜 各教科の出題の意図等

【国語】

長文読解では、評論・論説文を題材とし、芸術、文化、自然科学、人文・社会科学など、幅広いジャンルから出題している。こうした多様なテーマに対応するためには、日常的に様々な文章に触れることが重要である。習慣的に新書や新聞のコラムなどを積極的に読み、読解力を身につけているかを問う。

また、全体として語句の解釈を問う問題、文章内の内容や理由の説明を求める問題、要点把握・要約能力を問う問題などを中心に構成し、内容を論理的に理解する力を見極めている。

【数学】

基本的な計算問題や記述問題を、分野を問わず幅広く出題し、各分野の基本的な定義や公式が確実に理解できているかを確認している。

加えて、教科書傍用問題集で練習を重ねることで高得点が望める傾向にもあるため、日頃より例題や練習問題を繰り返し解くなど数学への取り組む姿勢を見ている。

全体的に問題量が多く、解答スピードも求められる。問題傾向を自ら分析し、解答順を決定するなど臨機応変な柔軟な思考力を持ち合わせているかについても問う。

座標、微分積分、場合の数はやや高度な問題を出題し、日頃から問題集などで十分に数学の分野にふれ、多様な問題への応用力を身につけているかについても確認している。

【物理】

基礎～標準レベルで分野を問わず幅広く出題している。

数値で解答する問題と文字式で解答する問題をバランスよく出題し、問題文を正しく理解し、適切な表現で論理的に説明できるかを確認している。

また、公式を単に暗記するだけではなく、その背後にある物理法則を理解し、公式を導く力を身につけているかを問うている。特にグラフを読み取る問題に関しては、答えを導き出すだけではなく、基本的な物理現象を図やグラフにまとめる力が不可欠となるため、日頃から物理的な関係性を図に表す習慣を身につけているかを見ている。

【化学】

難問や奇問は少ないものの、時間内に解くためには化学の基礎的な知識や考え方を十分に修得しておくことが必要な問題を出題している。

また、理論化学分野では知識を問う問題を出題し、用語の意味を正確に理解しているかを見ている。計算問題については、暗記するよりもその事象について理解し、応用できる力を問うている。

【生物】

知識のみを問う問題ではなく、生物学的な現象を問う問題を中心に出题している。それぞれストーリー性のある総合問題で、表やグラフなどの読解力、計算力を確認している。各分野から偏りなく出题し、基本的な知識を問う問題であっても、正しく理解できているかどうかを問われる場面が多い。知識を暗記するだけでなく、その背景や内容も理解し、活用できる力を見ている。

計算問題については、基礎知識を根底に、内容を理解したうえで論理的に処理する能力の修得度合を確認している。